

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年10月18日 (2012.10.18)

【公開番号】特開2011-213836(P2011-213836A)

【公開日】平成23年10月27日 (2011.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2011-043

【出願番号】特願2010-82451(P2010-82451)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/16 (2006.01)

C 0 8 K 3/10 (2006.01)

C 0 8 K 5/09 (2006.01)

C 0 8 K 5/07 (2006.01)

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

C 0 8 J 11/26 (2006.01)

C 0 8 J 11/16 (2006.01)

C 0 8 J 11/24 (2006.01)

C 0 8 J 11/22 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 101/00 Z A B

C 0 8 K 3/16

C 0 8 K 3/10

C 0 8 K 5/09

C 0 8 K 5/07

C 0 8 L 23/00

C 0 8 J 11/26

C 0 8 J 11/16

C 0 8 J 11/24

C 0 8 J 11/22

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成24年9月4日 (2012.9.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 7 】

酸化分解剤は、一般的に、光、熱、空気等の作用下で、樹脂成型体を形成するポリマーを酸化分解して、微生物分解が可能な程度に当該ポリマーを低分子化するが、本発明では、酸化分解剤の中でも、光（紫外線）曝露によってポリマーの酸化分解作用を発揮する酸化分解剤（以下、光要求性酸化分解剤）が好適に使用される。光要求性酸化分解剤を含む生分解性樹脂成型体は、遮光条件下では分解されないため、製造時、流通時、保存時等の使用前段階では遮光雰囲気（遮光空間、遮光容器、遮光袋等）で保管することにより、使用時まで耐久性の劣化を招くことなく、所望の機能を保持させることが可能になる。このような光要求性酸化分解剤としては、例えば、希土類化合物を含む酸化分解剤が挙げられ、より具体的には商品名「P-life」（ピーライフ・ジャパン・インク株式会社製）が例示

される。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３９】

また、本発明の分解剤において、酸化分解剤と塩化物塩の比率については、特に制限されるものではないが、例えば、酸化分解剤の総量１００質量部当たり、塩化物塩が総量で４～２８００質量部程度、好ましくは１０～２６００質量部程度、更に好ましくは５０～２４００質量部程度が挙げられる。